

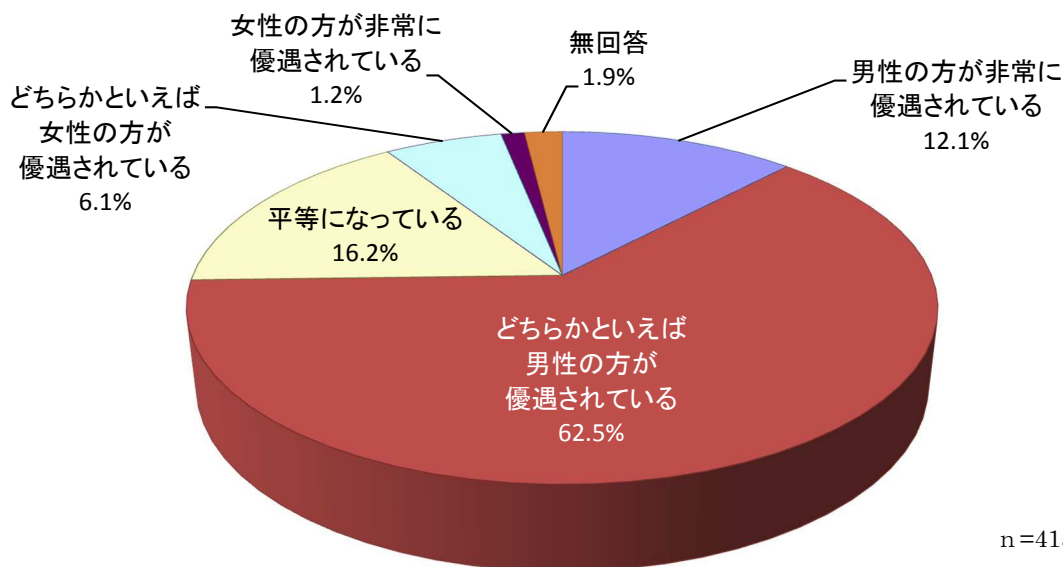
3. 男女共同参画について

(1) 社会全体で男女の地位は平等になっているか

◇【男性優遇（計）】は7割台半ば，「平等」は1割台半ば，【女性優遇（計）】は1割を下回る

問9	現在，社会全体で男女の地位は平等になっていると思いますか。	(○は1つ) n=413
1	男性の方が非常に優遇されている	12.1%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	62.5%
3	平等になっている	16.2%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.1%
5	女性の方が非常に優遇されている	1.2%
	(無回答)	1.9%

<図IV-3-1>全体

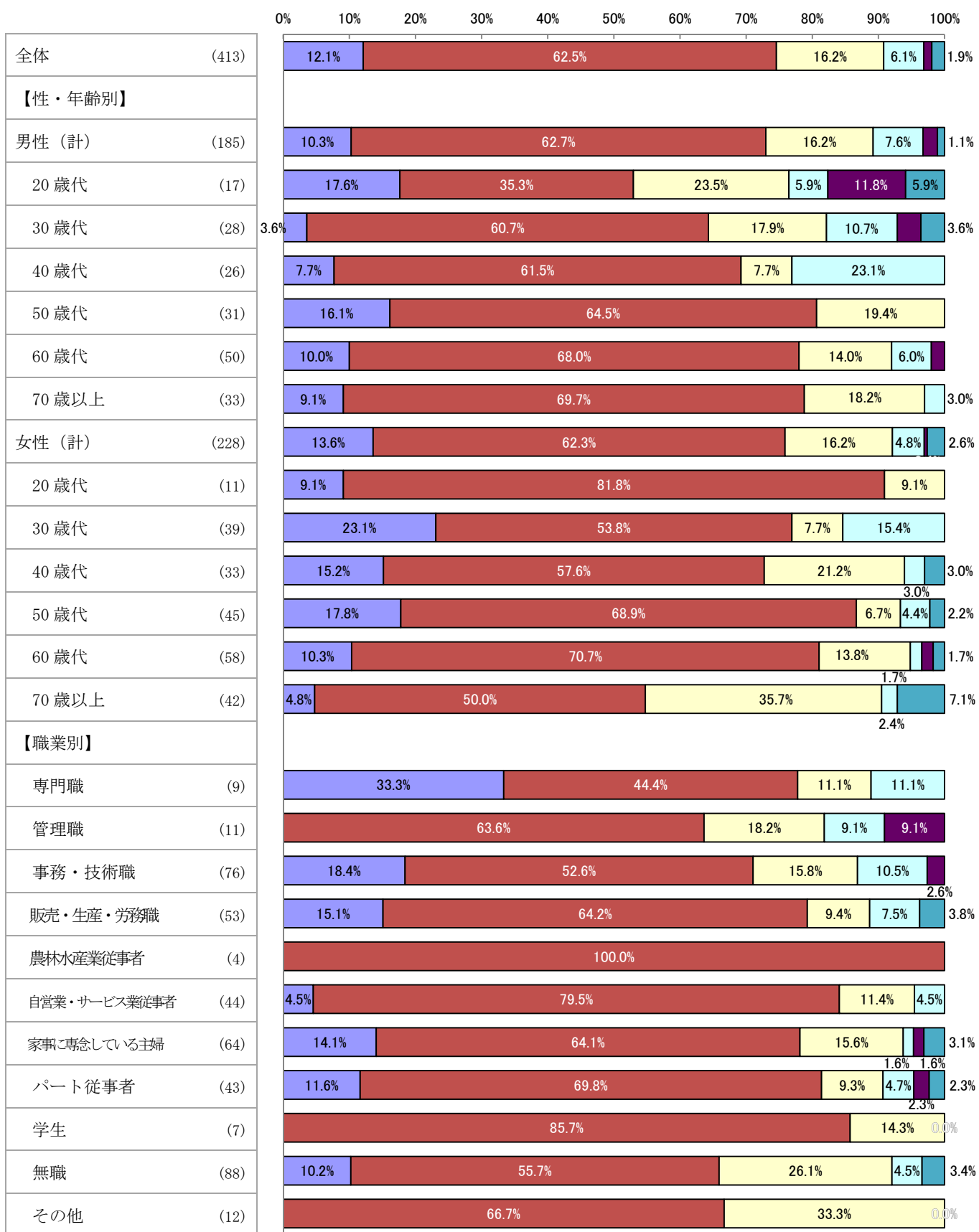
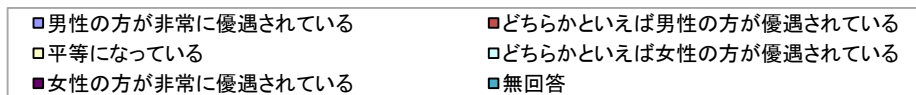


現在，社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ，「男性の方が非常に優遇されている」(12.1%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(62.5%)を合わせた【男性優遇（計）】(74.6%)は7割台半ばとなっている。「平等になっている」(16.2%)は1割台半ばで，「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(6.1%)と「女性の方が非常に優遇されている」(1.2%)を合わせた【女性優遇（計）】(7.3%)は1割を下回っている。(図IV-3-1)

性・年齢別に見ると，「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた【男性優遇（計）】は<女性/20歳代>(90.9%)，<女性/50歳代>(86.7%)，<女性/60歳代>(81.0%)，<男性/50歳代>(80.6%)と続いている。(図IV-3-2)

職業別に見ると，「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた【男性優遇（計）】は<農林水産業従事者>(100.0%)，<学生>(85.7%)，<自営業・サービス業従事者>(84.0%)と続いている。(図IV-3-2)

< 図IV-3-2 > 性・年齢別/職業別

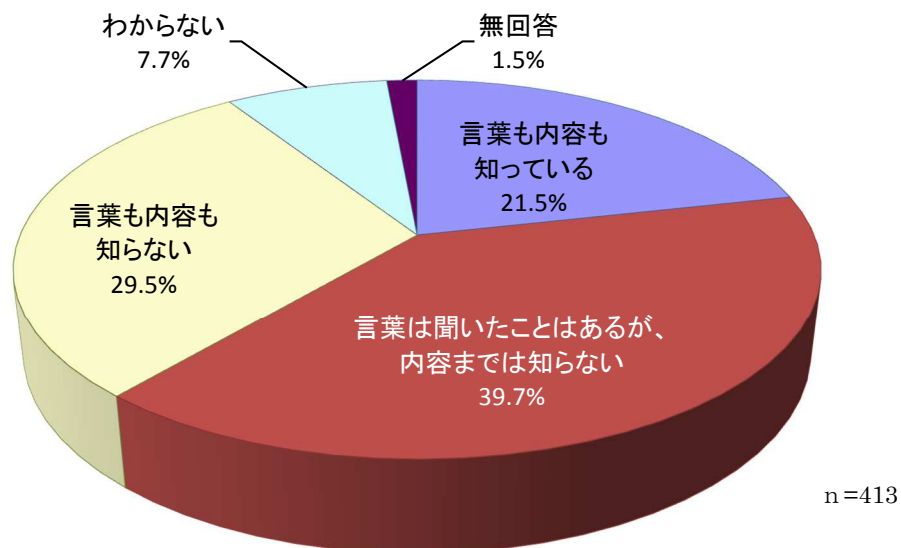


(2) 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度

◇ 「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」がほぼ4割

問10	あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉について、どの程度知っていますか。	(○は1つ)
		n=413
1	言葉も内容も知っている	21.5%
2	言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない	39.7%
3	言葉も内容も知らない	29.5%
4	わからない	7.7%
	(無回答)	1.5%

<図IV-3-3>全体

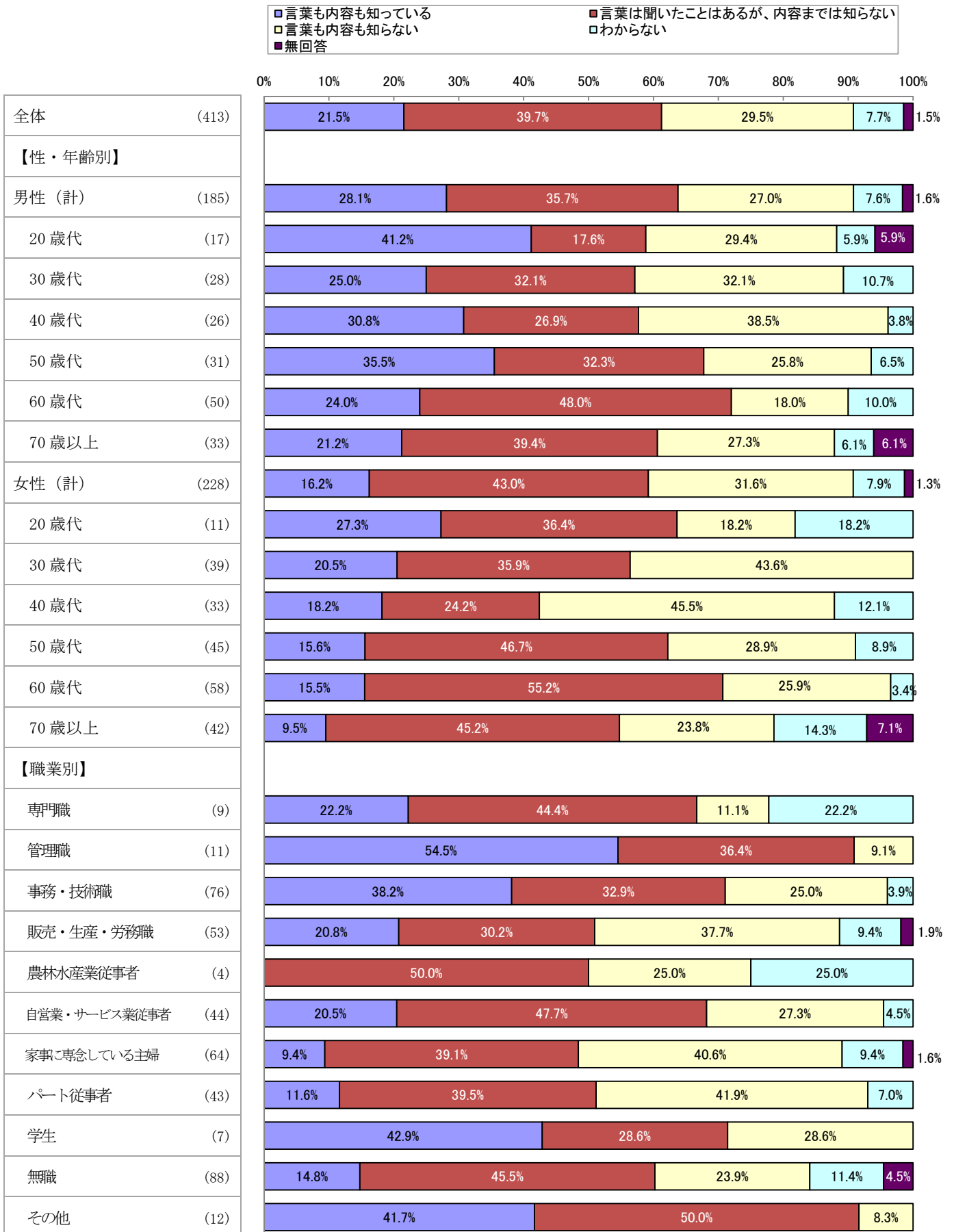


「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が39.7%と最も多く、次いで「言葉も内容も知らない」が29.5%、「言葉も内容も知っている」が21.5%と続いている。(図IV-3-3)

性・年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」は<男性/20歳代>の41.2%が最も多く、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は<女性/60歳代>の55.2%、「言葉も内容も知らない」は<女性/40歳代>の45.5%が、最も多かった。(図IV-3-4)

職業別にみると、「言葉も内容も知っている」は管理職の54.5%が最も多く、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は農林水産業従事者の50.0%が最も多かった。(図IV-3-4)

<図IV-3-4>性・年齢別/職業別

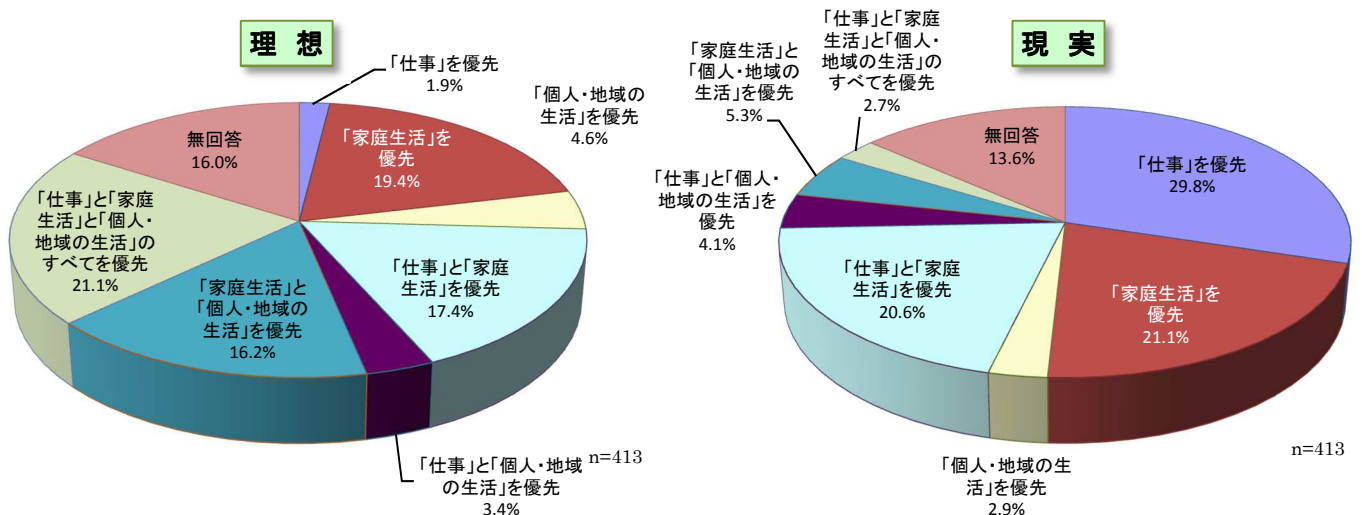


(3) 生活の中で何を優先するか

◇【理想】では『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先』が約2割，【現実】では『「仕事」を優先』が約3割

問1 1	生活の中での、仕事、家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児など）、個人・地域の生活（趣味、娯楽、ボランティア活動、自治会活動、など）のうち、何を優先しますか。	n=413	
		【理想】	【現実】
1	「仕事」を優先	1.9%	29.8%
2	「家庭生活」を優先	19.4%	21.1%
3	「個人・地域の生活」を優先	4.6%	2.9%
4	「仕事」と「家庭生活」を優先	17.4%	20.6%
5	「仕事」と「個人・地域の生活」を優先	3.4%	4.1%
6	「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先	16.2%	5.3%
7	「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先	21.1%	2.7%
	(無回答)	16.0%	13.6%

<図IV-3-5>全体



生活の中で何を優先するか【理想】では、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべて』が(21.1%)と最も高く、次いで、『「家庭生活」を優先』が(19.4%)、『「仕事」と「家庭生活」を優先』が(17.4%)と続いている。

生活の中で何を優先するか【現実】では、『「仕事」を優先』が(29.8%)と最も高く、次いで、『「家庭生活」を優先』が(21.1%)、『「仕事」と「家庭生活」を優先』が(20.6%)と続いている。(図IV-3-5)

【理想】と【現実】を比較してみると、『「仕事」を優先』(1.9%・29.8%)が27.9ポイントと最も差が出ている。次いで、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』(21.1%・2.7%)が18.4ポイント、『「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先』(16.2%・5.3%)が10.9ポイントの差となっている。

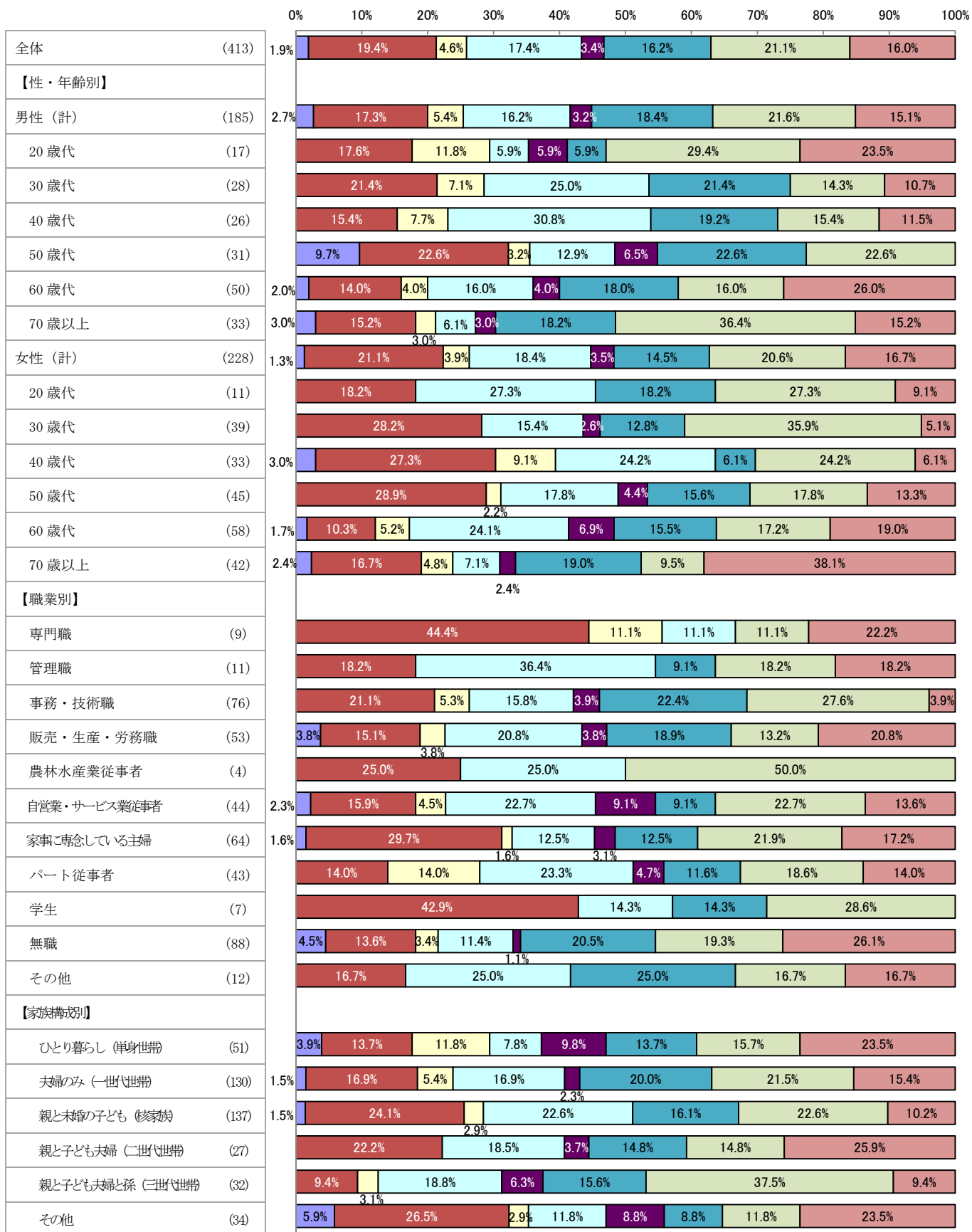
性・年齢別で見ると、<男性>の方が<女性>より『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』する【理想】と【現実】の差が大きくなっている。(男性19.4ポイント、女性17.5ポイント)(図IV-3-6)(図IV-3-7)

また、<女性/30代>で35.9ポイント、<男性/20代>で29.4ポイント【理想】と【現実】の差が最も大きくなっている。(図IV-3-6)(図IV-3-7)

<図IV-3-6>性・年齢別職業別家族構成別【理想】 <図IV-3-7>性・年齢別職業別家族構成別【現実】

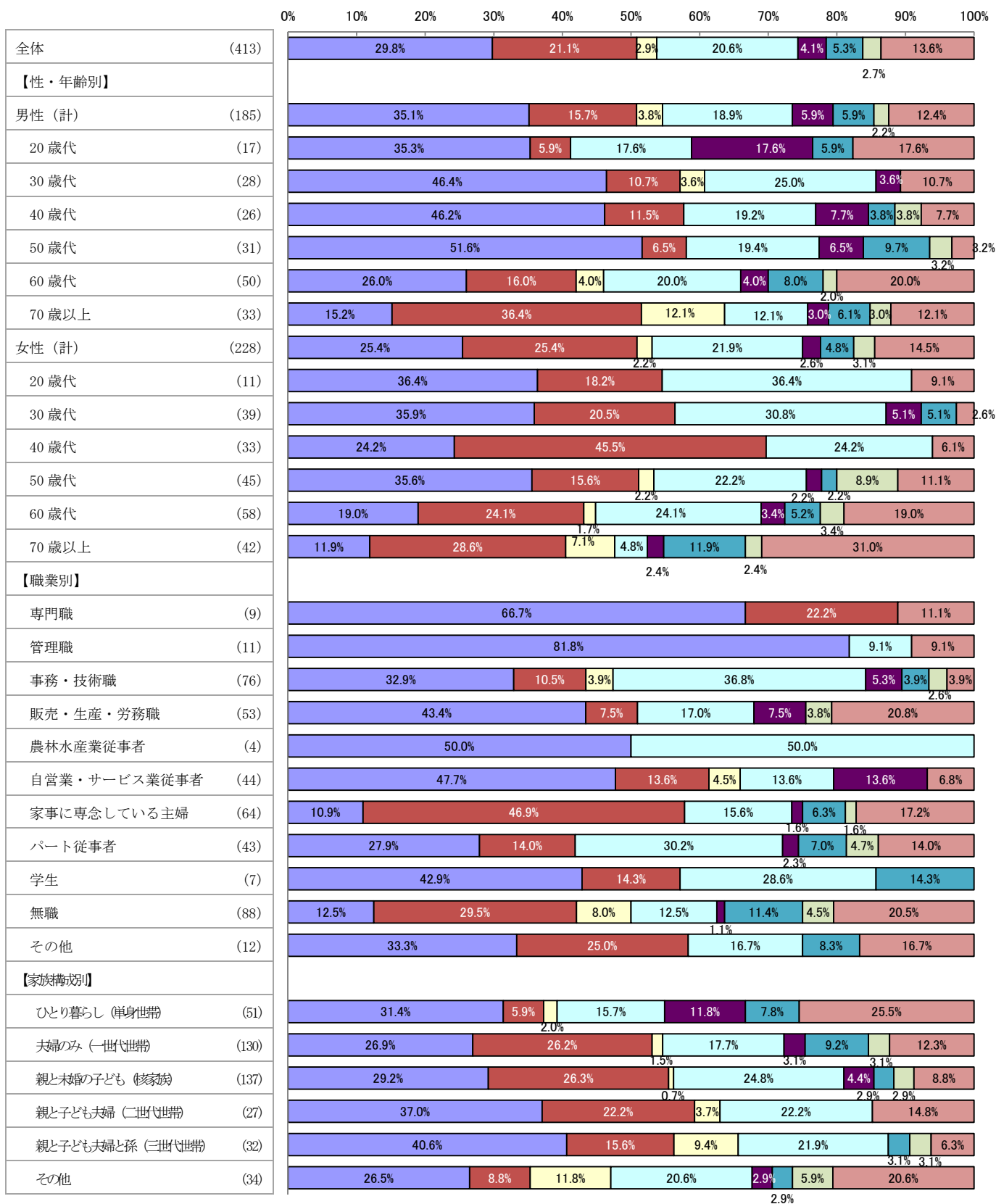
<図IV-3-6>性・年齢別/職業別/家族構成別（理想）

- 「仕事」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」を優先
- 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- 無回答



<図IV-3-7>性・年齢別/職業別/家族構成別（現実）

- 「仕事」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」を優先
- 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- 無回答

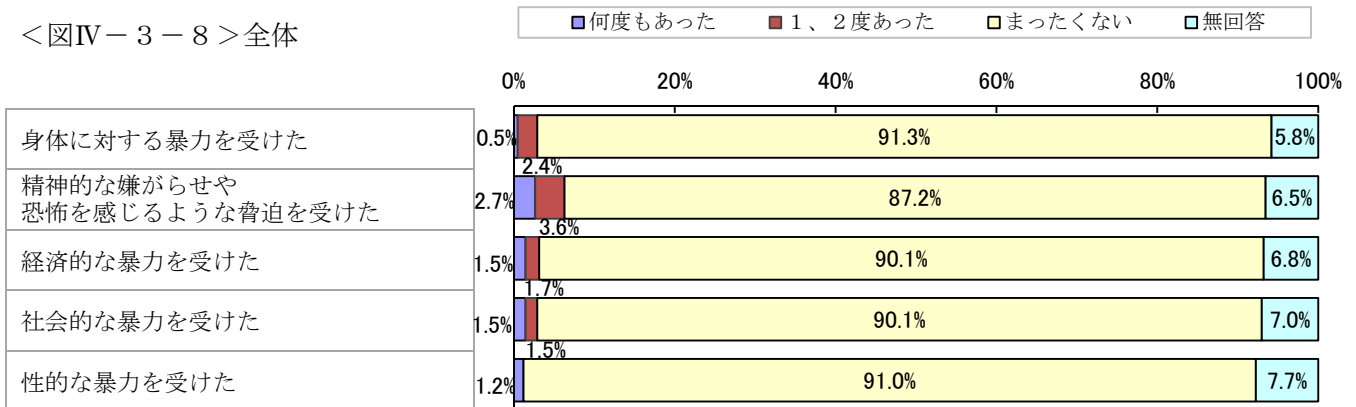


(4) 配偶者等からの暴力を受けた経験

◇ 何らかの「暴力を受けた」経験のある女性は4.7と男性の3倍以上

問12	過去2年間に夫や妻、恋人から、次のような暴力を受けたことがありますか。次の各項目について、あてはまる番号に○をつけてください。	n=413			
		何度もあった	1, 2度あった	まったくない	無回答
1	身体に対する暴力を受けた(殴る, 蹴るなど)	0.5%	2.4%	91.3%	5.8%
2	精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた(大声で怒鳴る, 待ち伏せをするなど)	2.7%	3.6%	87.2%	6.5%
3	経済的な暴力を受けた(生活費を渡さない, 支出を細かく監視するなど)	1.5%	1.7%	90.1%	6.8%
4	社会的な暴力を受けた(携帯電話を壊す, 親族や友人との付き合いを制限するなど)	1.5%	1.5%	90.1%	7.0%
5	性的な暴力を受けた(性行為を強要する, 避妊に協力しないなど)	1.2%	0.0%	91.0%	7.7%

<図IV-3-8>全体



過去2年間に、夫や妻、恋人から暴力を受けたことがあるかについて、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、『精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた』(6.3%)が最も多く、次いで、『経済的な暴力を受けた』(3.2%)、『社会的な暴力を受けた』(3.0%)、『身体に対する暴力を受けた』(2.9%)となっている。(図IV-3-8)

さらに暴力の種類ごとに性・年齢別において、【経験あり(計)】が最も多いものは、『身体に対する暴力を受けた』は<女性/20歳代>(9.1%)、『精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた』は<女性/60歳代>(19.0%)、『経済的な暴力を受けた』は<女性/40歳代>(9.1%)、『社会的な暴力を受けた』は<女性/60歳代>(8.6%)、『性的な暴力を受けた』は<女性/60歳代>(5.2%)となっている。(図IV-3-9~図IV-3-13)

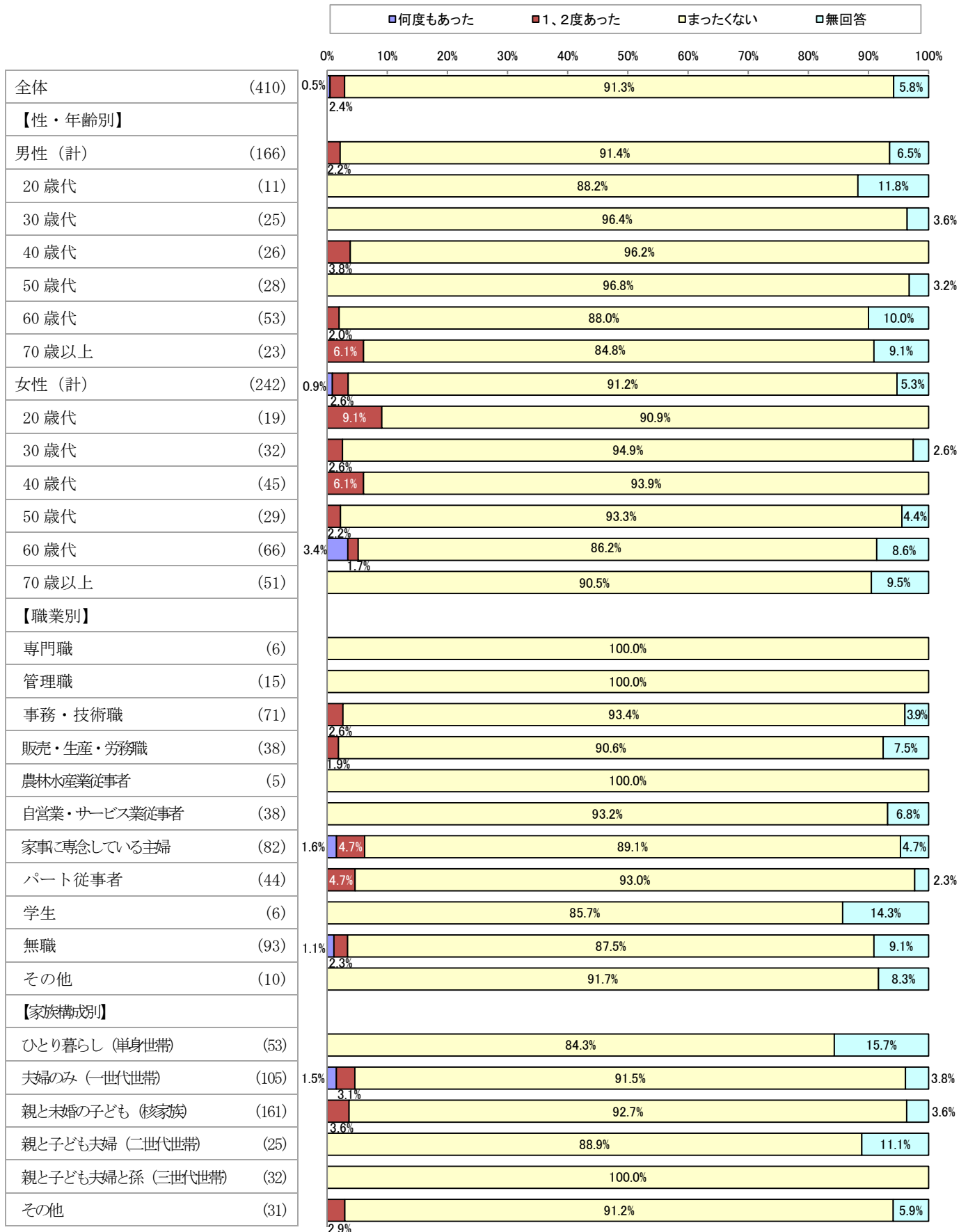
性・年齢別で見ると、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、<女性>(4.7%)に対し、<男性>(1.5%)となっており、女性の方が3倍多くなっている。(図IV-3-14 総合)

職業別で見ると、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「家事に専念している主婦」と「パート従事者」に多くみられた。(図IV-3-14 総合)

家族構成別で見ると、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「親と子ども夫婦(二世帯世帯)」と「夫婦のみ(一世帯世帯)」に多く見られる。(図IV-3-14 総合)

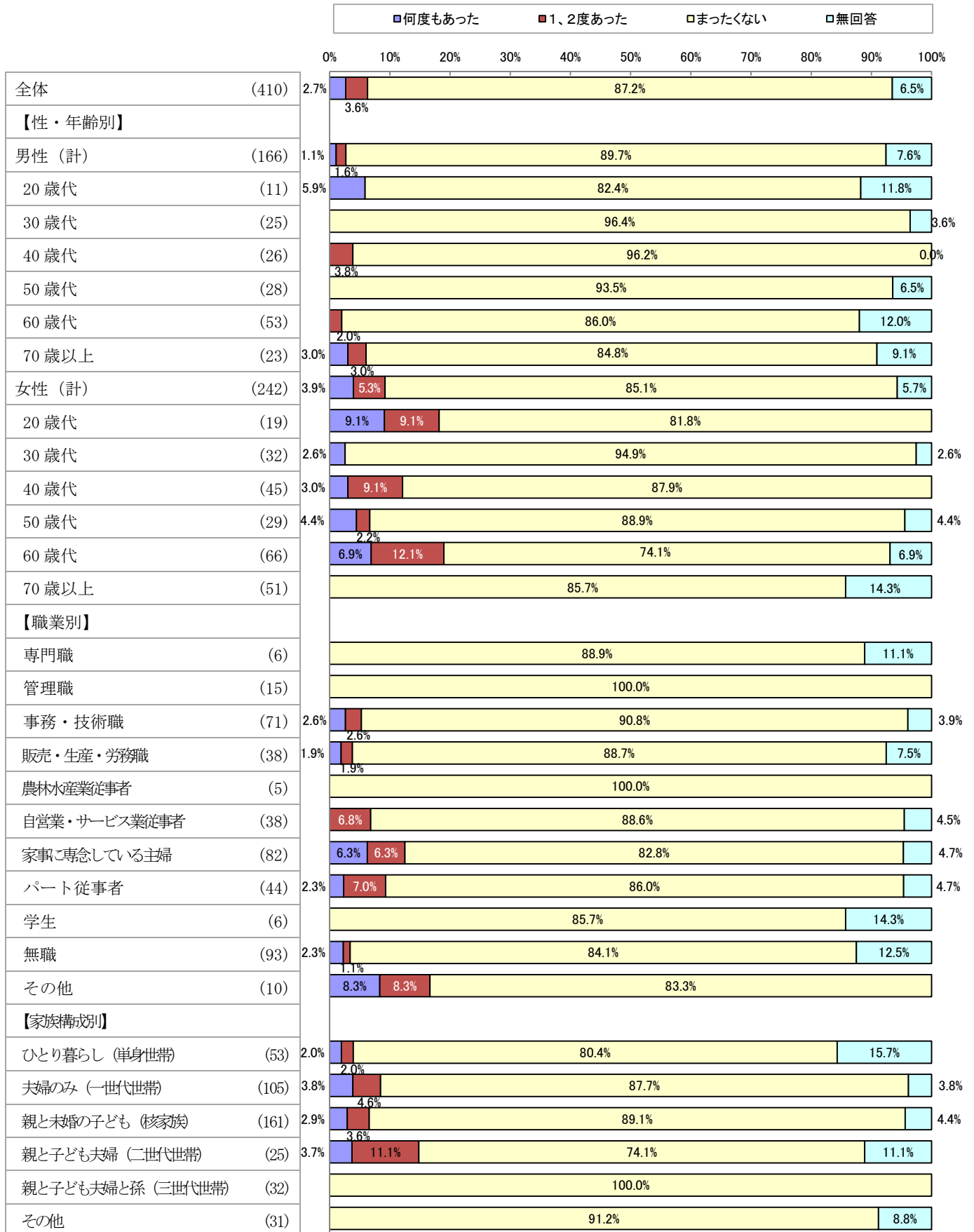
①身体に対する暴力を受けた

<図IV-3-9>性・年齢別/職業別/家族構成別



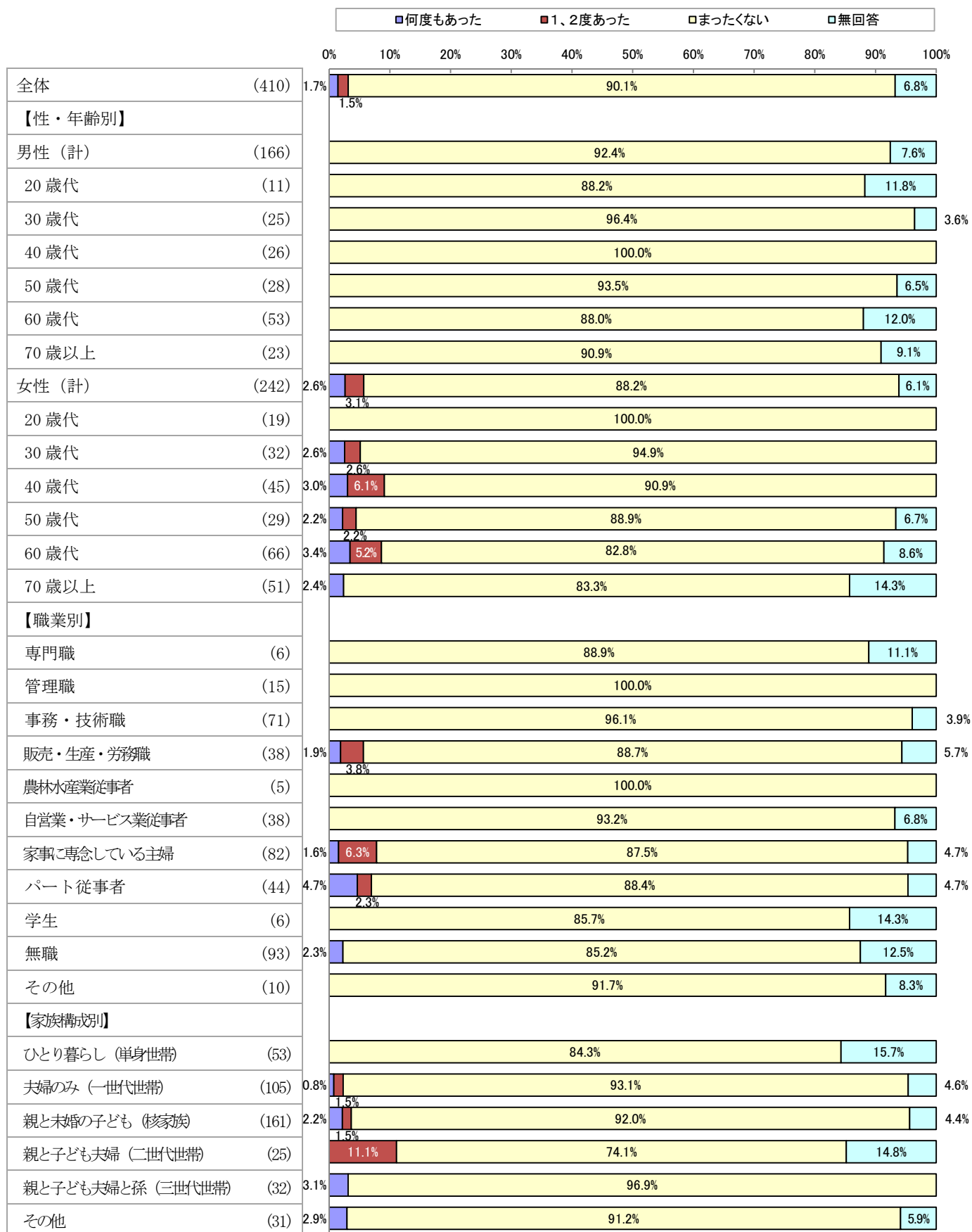
②精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた

<図IV-3-10>性・年齢別/職業別/家族構成別



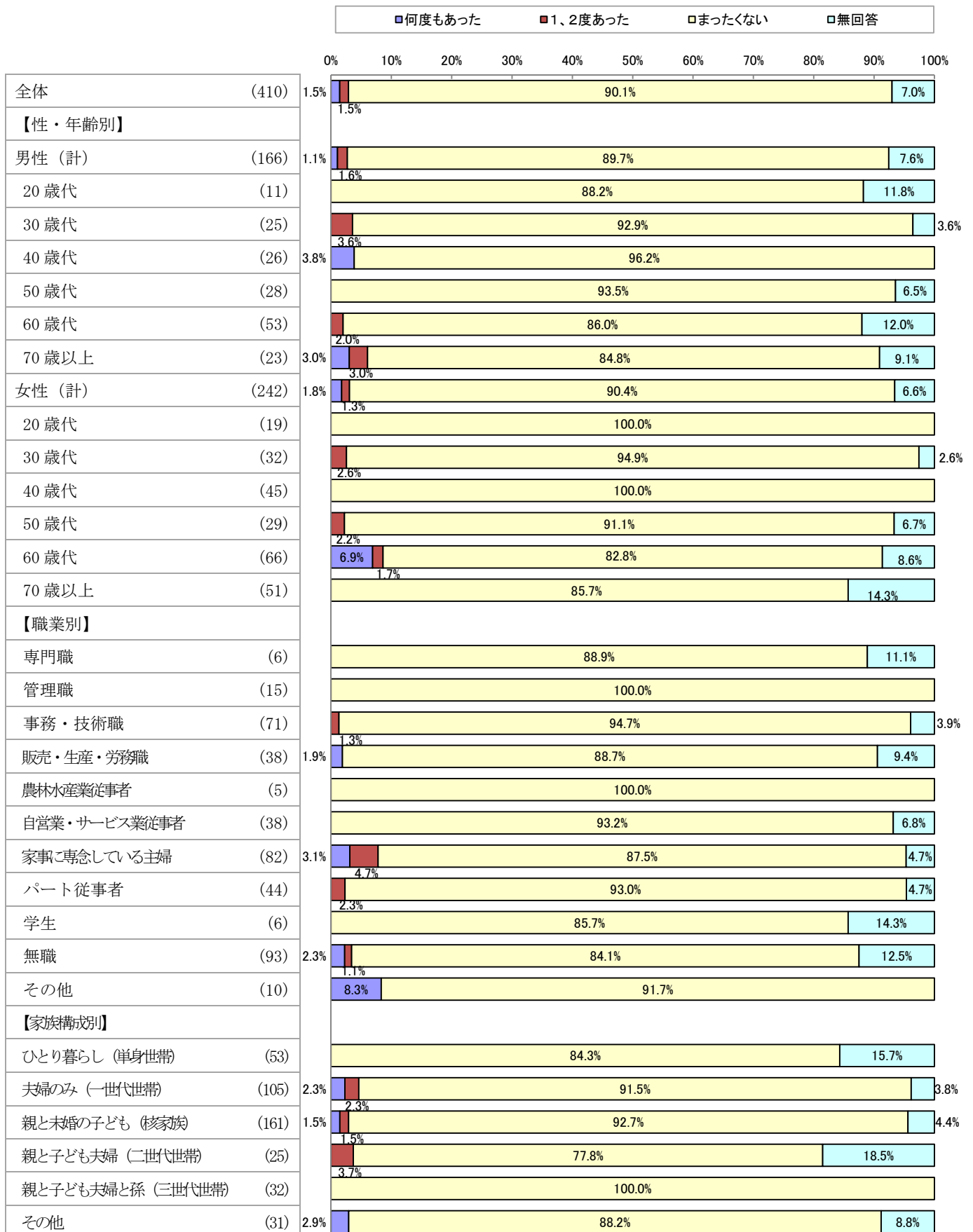
③経済的な暴力を受けた

<図IV-3-11>性・年齢別/職業別/家族構成別



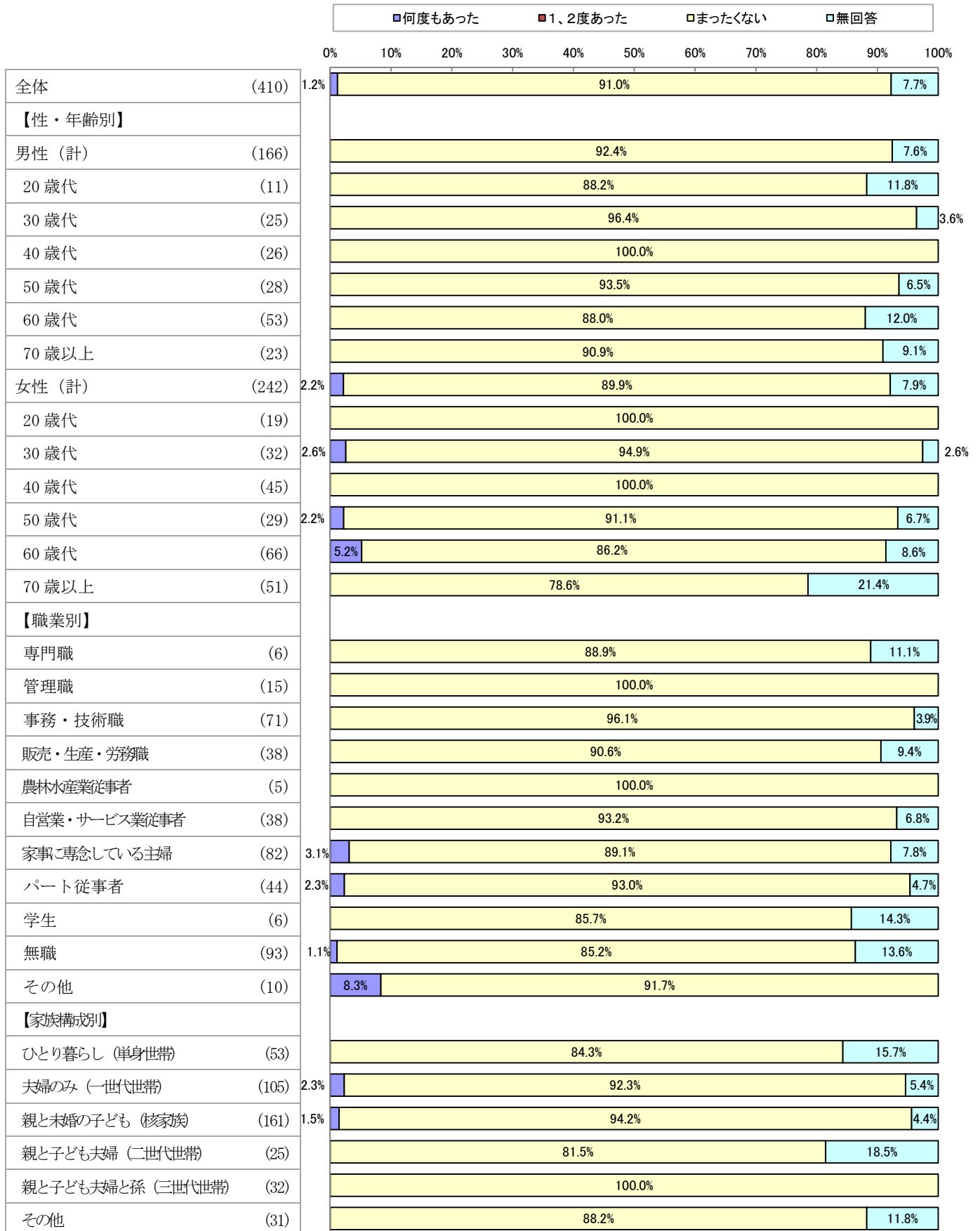
④社会的な暴力を受けた

<図IV-3-12>性・年齢別/職業別/家族構成別



⑤性的な暴力を受けた

<図IV-3-13>性・年齢別/職業別/家族構成別



●暴力を受けたことがある（総合）

<図IV-3-14>性・年齢別/職業別/家族構成別

